

平成30年豆作り講習会の 開催について

(公財) 日本豆類協会

「豆作り講習会」につきましては、北海道における豆類の適正な作付面積の確保と栽培管理技術の高位平準化により、需要に応じた良質豆類を安定的に生産するため、公益財団法人日本豆類協会の主催の下、農林水産省穀物課、道庁、道内関係機関・団体のご協力を得て、農業者及び農業関係者を対象に農家経営の安定・向上に資することを目的に、昭和41年から開催してきております（一時中断期間あり）。

今年は、平成30年1月30日～31日、2月7日～8日に道内4会場において開催しましたので、その概要をご紹介します。

1.平成30年1月30日～31日（上川会場、後志会場）

30日は上川総合振興局合同庁舎（参加者：165名）、31日は後志総合振興局合同庁舎（参加者：109名）において実施しました。

10時30分に開会し、冒頭、当協会の飯田常務から挨拶を行った後、農林水産省政策統括官付穀物課の淵上課長補佐より、豆類をめぐる情勢（最近の小豆、いんげん豆をめぐる生産・輸入、価格動向、関税割当制度と輸入、日EU、EPA及びTPP11大筋合意の内容）、新たな原料原産地表示制度の概要について説明いただき、続いて日本製餡協同組合連合会の谷田理事から道産豆類への要望と題して、独自のアンケート結果も踏まえて、あんにんにしやすい小豆とは、小豆のブランド化、反収・品質の向上の重要性等について講演いただきました。

昼食後、ホクレン農業協同組合連合会の松村課長補佐から豆類の需給事情や来年度の計画生産指標について説明いただいた後、30日には地方独立行政法人北海道立総合研究機構農業研究本部（上川農試）の藤田研究主任、古川研究主幹から、31日には同農業研究本部（中央農試）の相馬研究主査、西脇主査から良質豆類の生産に係る豆類の有望な新品種（小豆新品種「エリモ167号」（落葉病抵抗性をつけたエリモショウズ）、菜豆新品種「きたロッソ」（国産初のサラダ、スープに適した赤いんげん豆）を中心に、「豆類において注意を要する病害虫」として豆類のマメゾウムシ類について報告いただきました。

全体を通じての質疑応答を経て、14時30分に終了しました。



上川会場



後志会場



谷田理事の講演



淵上課長補佐の説明

2.平成30年2月7日～8日（オホーツク会場、十勝会場）

7日は女満別研修会館（参加者：170名）、8日は十勝幕別温泉グランヴィリオホテル（参加者：277名）において実施しました。

10時30分に開会し、冒頭、当協会の安永参与、大空町長から挨拶を行った後、農林水産省政策統括官付穀物課の庭瀬係長より、豆類をめぐる情勢（最近の小豆、いんげん豆をめぐる生産・輸入、価格動向、関税割当制度と輸入、日EU、EPA及びTPP11大筋合意の内容）、新たな原料原産地表示制度の概要について説明いただきました。続いて全国和菓子協会の藪専務理事からは、北海道小豆の増産と品質向上に対する要望と、原料小豆供給者としての北海道小豆生産者への期待等について講演いただきました。

昼食後、ホクレン農業協同組合連合会の松村課長補佐から豆類の需給事情や来年度の計画生産指標について説明いただいた後、7日には、地方独立行政法人北海道立総合研究機構農業研究本部（北見農試）の萩原主査、池田研究主査から、8日には同農業研究本部（十勝農試）の堀内研究主任、齋藤研究主任、中川研究主任から良質豆類の生産に係る豆類の新品種、防除対策について報告いただきました。

全体を通じての質疑応答を経て、15時に終了しました。



オホーツク会場



十勝会場（藪専務の講演）